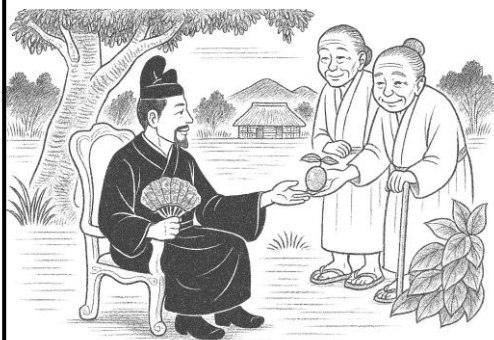


～ 大嶋・奥津嶋神社だより ～ むべなるかな

《発行》令和7年10月／大嶋・奥津嶋神社氏子総代



長寿の果実「むべ」を皇室へ ～千三百年の伝統を受け継ぐ～



秋の訪れとともに、当神社では今年も宮内庁へ「むべ」を献上する季節を迎えました。紫色に熟した実は、まるで琵琶湖の夕暮れを映したような深い色合いを湛えています。この「むべ」献上の由来は、今から千三百年以上前に遡ります。

天智天皇が蒲生野へ狩猟に訪れた際、八人もの男子をもつ長命な老夫婦に出会われました。その健やかな姿に感銘を受けた天皇が長寿の秘訣を尋ねると、老夫婦は「これを食べているからです」と、むべの実を差し出しました。

天皇はこれを召し上がり、「むべなるかな」―「もったもた」とお言葉を賜ったと伝えられています。

古文書「宮内省諸国例貢御贄」には、近江国から琵琶湖のフナやマスとともに、むべが朝廷へ献上されていた記録が残されています。この伝統は途切れることなく受け継がれ、昭和二年には奥島の福居千之助氏により「むべ伝献願書」が提出され、昭和天皇への献上も認められました。

昭和五十七年に一旦途絶えましたが、この地に実るむべは地域の誇りそのもの。氏子らの尽力により平成十四年に復活を果たし、現在も当神社では毎年、この尊い伝統を守り続けています。

◆天智天皇と近江の縁

天智天皇(626-672)は、飛鳥時代から奈良時代への転換期を生きた革新的な君主でした。大化の改新を主導し、日本で初めて戸籍を作成するなど、国家体制の整備に尽力されました。

667年、天皇は都を飛鳥から近江大津宮(現在の大津市)へ遷されました。琵琶湖を望むこの地で、天皇は新しい国づくりの夢を描かれたのです。天皇の崩御後、歌人・柿本人麻呂は「近江の海 夕波千鳥 汝が鳴けば 心もしのに 古思ほゆ」と詠み、天皇と近江の深い結びつきを偲びました。

この歌は、天皇がこの地に寄せた思いの深さを、今に伝えています。蒲生野で老夫婦に長寿の秘訣を尋ねられた天皇の姿には、民の暮らしに寄り添い、その知恵に謙虚に耳を傾ける、慈愛に満ちた人柄が表れています。

11月の予定(行事案内)

- | | | | |
|----------------|-----|----------|---------------|
| ・ 11月4日 (火曜日) | 月例祭 | 百々神社 | 午前10時より祈祷受付開始 |
| ・ 11月16日 (日曜日) | 新嘗祭 | 大嶋・奥津嶋神社 | 午前11時より |

大嶋奥津嶋神社ホームページ



Instagram



お気に入り登録・フォローをお願いします